

〔牧民金鑑十八〕文化二年七月○中略

一神社佛閣參詣之道筋五海道往還筋り、夫々脇往還極り有之處、往來筋に無之道江入込、或は古來に無之乘船渡海等ニ而本道を除候も有之趣に相聞、右は宿方并間之村々ニ而案内致候故之儀不埒之事に候旅人にもかざらす、前々より本道に掛候諸荷物も、近來本道を省、脇道江掛、或は船積ニ而運送相勤候場所も有之趣に相聞、是又不埒之事に候旅人并諸荷物とも、新規之道通行之繼立、或は船差出候儀は、其所より奉行所江願出可申儀ニ付五海道とも右體の場所有之ば、宿々より可訴出候、

右之趣、相觸候條可守之候、若相背もの有之におるては、吟味之上、急度答可申付もの也、

丑七月

左近奉行

美濃岩瀬

佐東海道品川宿

守口宿迄

右間之村々  
本陣  
問屋  
年寄

名主  
組頭

右道中奉行觸書、中山道、日光道中、奥州道中、甲州道中、同文書、

〔道中秘書〕脇往還人馬繼立賃錢無之事

同方組頭中

脇往還江州鎌掛宿人馬賃錢定之儀ニ付、京都町奉行より之添簡を以別紙之通願出候右は御勘定所ニ而取扱可然品と相見候間、取調否可申聞候事、

御書面、脇往還江州鎌掛宿人馬賃錢定度願之儀ハ、公事方御勝手方御一同之御掛リニ而取調方ハ御勘定所ニ而取扱候間、則別紙願書之趣取調候處、右宿方人馬賃錢定無之故、賃錢不足ニ拂候ものも有之候得共、強而受取候儀も難相成候間、此度御定被下候様申立、右ハ都而脇往還宿方人馬賃錢之儀ハ、仕來を以受取候ハ、格別、願ニ依而賃錢御定被成、遣候儀ハ、是迄例も無